

総合的な学習の時間 - 10 (第3学年) 取材した情報を新聞にまとめる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 地域のよさを伝えよう		
2 単元の目標 地域のよさを調べたり伝えたりする活動を通して、地域の自然事象・社会事象への理解や地域で生きる人々の努力や工夫を知り、そのよさを発信していこうとする。		
3 評価規準 【学習方法】 ・地域の現状を把握し、各自が追究する課題を設定している。 ・必要に応じて方法を選択し、地域に関する情報を収集・分析している。 【自分自身】 ・地域のよさに気付き、その価値を他の地域に伝えていこうとする。 【他者や社会との関わり】 ・地域に住む人や異なる地域の人と、よさや違いを交流している。		
4 教材 生徒は、1学年で地域の事業所を訪問して地域のよさや問題を聞き取り、2学年では、職場体験を通して、より深く地域について学習してきた。そこで、3学年では、具体的に地域を活性化する手立てを考え、できることを実践していくこととする。これまでの身の回りの人たちからの聞き取り活動を発展させ、3学年の修学旅行で東京を訪れる機会を利用して外から見た鳥取県について調査活動をしたり、その結果を新聞にまとめたりしながら、地域のよさや課題を明確にし、地域の活性化について考え行動する単元を構成した。		
5 主な学習活動 (1)単元の展開(全45時間)		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (5)	地域のよさや課題を再検討しよう。 ・1,2年生での学習を振り返る。 ・振り返りながら取り出した情報を整理し、地域のよさや問題点を浮き彫りにする。	・学習の記録を読み返し、学習活動を振り返りながら、地域のよさや課題を情報として取り出す。
第一次 (23)	鳥取県認知度調査をしよう。 ・ウェビング図を用いたり、カード整理をしたりしてアンケート用紙を作成する。 ・グループで作成したアンケートを発表し合い、全体でまとめる。 修学旅行を活用し、東京で鳥取県認知度調査を実施する。 アンケート結果を集計分析して発表する。 ・グループで質問項目を分担して集計分析する。 ・集計分析した結果をパワーポイントにまとめて発表する。 認知度調査の結果を新聞にまとめよう。 (本時20/23)	・ウェビング図で鳥取県に対する発想を広げ、カードによって仲間分けしながら、アンケート項目を検討していく。 ・結果の考察を視野に入れて、アンケート回答者に関する質問項目を検討する。 ・必要に応じてアンケートの仕方なども練習する。 ・アンケートなどの調査結果を集計し、表やグラフなどを使って表現する。
第三次 (17)	自分の課題を追究し、町のためになることを実現していこう。(個人追究) 町のよさを発信し、みんなでできることを実現していこう。(学年追究)	・自分の考えと全体の考えを統合するために、学年全体で意見交換する。
(2)本時の学習 記事の割り付けやレイアウトを考えながら、トップ記事を決めたり、見出しやリード文を考えたりして新聞の下書きを完成させる。		
調査活動で体験したこと、新たに得た情報と自分の感想や考えを分ける。 異なる2カ所の調査場所での情報を比較する。 トップ記事を決める。 見出しとリード文を考える。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領 第4章 総合的な学習の時間 第3の2の(4)において、「体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けること。」と示している。

これまで修学旅行は学年行事として行い、総合的な学習の時間としての探究活動とはなっていない。そこで、修学旅行の一部の活動を総合的な学習の時間と関連付け、地域を外から見る機会と考えて本単元に位置付けた。その具体的な活動が、鳥取県の認知度アンケートと鳥取県及び他県のアンテナショップの訪問であり、それらにより地域のPRについて考えるきっかけとしたいと考えた。

アンケート調査の結果やアンテナショップを比較して分かったことは、グループでパワーポイントにまとめて発表するとともに、個人が得た知見や感想は新聞形式でまとめ、掲示することで互いに読み合い、共有することとした。新聞形式にまとめる活動は、1学年の職場訪問、2学年の職場体験でも実施している。体験したことを新聞形式に表現することにより、体験を通して学んだことが質的に高まる姿を期待した。

【言語活動の充実の工夫】 取材した情報から新聞を作成する
新聞を作成するに当たっては、記事の編集方針として、次の点に留意した。

- 調べて分かった事実と、そこから導いた意見を区別して書く。
- 記事には、「班別自主研修で訪問した見学地」、「アンテナショップを訪問し取材したこと」の2点は入れる。
- コラムには、修学旅行のテーマの一つである「人との出会い」について自分の意見や感想を盛り込む。
- 編集後記として、アンケートを実施して思ったこと、感じたことを書く。

上記の方針を確認した上で、次の手順で新聞を作成した。

割り付けやレイアウトを考える
インパクトのある見出しを考える
時数制限を加えリード文を考える
多様な情報を生かして記事を書く

最初に、構想メモを練り、それから記事の割り付けやレイアウトを考えて下書きをした。次に新聞の内容が伝わり、読み手が読みたくなるような見出しを考えた。例えば、疑問形（例「環境に優しいお土産とは？」）、倒置法（例「誇りを持つ鳥取県」）、体言止め（例「関心が深まった自分の将来」）など工夫をするようにした。そして、三文によるリード文を作成した。

新聞に掲載する写真や図は、班別自主研修で各班が写したのから2~3枚程度を選び、作成する新聞の内容や意図に沿うものとして選定した。その他にも、場所や時間をはっきり記すこと、会話を入れた表現の工夫で臨場感を出すこと、などの工夫も行い新聞を作成していった。

